

日本雪氷学会広報普及事業 巡回*雪氷写真展「ようこそ！雪と氷の世界へ」経過報告

角川 咲江¹⁾, 碓氷 英之²⁾

1. はじめに

社団法人日本雪氷学会広報委員会では、平成 21 年度事業の一つとして図 1 の入会のしおり（入会案内）を刷新するにあたり、学会員を対象に掲載する写真やイラストを公募したところ、46 点の写真の応募をいただいた。制作期間が足りなくて時間切れとなったものの、研究内容等、学会の活動をできるだけ網羅することを目指し、追加で提供いただいた写真を加えると、総計 68 点が集まった。ただし、同じ内容で撮影角度の異なる写真は 1 点にまとめ、データとしては 62 点を保管している（2010 年 1 月現在）。

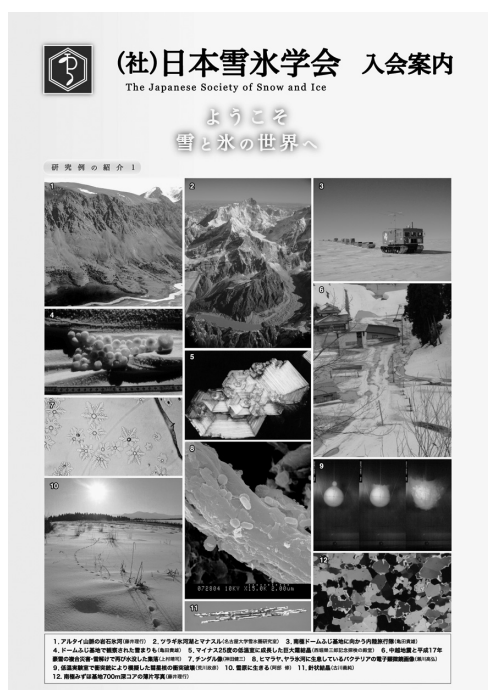


図 1 入会のしおり（表紙/A4 サイズ）

入会のしおりには、デザイン上、44 点の写真しか掲載できなかったが、他の写真も内容的には素晴らしく、学会員の研究内容を写真を通して一般に知っていただくのに適した素材であるため、展示用パネルとして加工し、ある程度まとまった数のパネルを展覧会用貸出キット（以下、巡回展キットと表現する）として貸し出す事業に着手した。

2. 巡回展キットをつくる背景

筆者は博物館に勤務し、運営事業を担当する中で展示の企画や制作にも携わっている者であるが、展示にかかる予算が少ないため、年に何度も自前の企画で展覧会をつくるのは難しく、毎年 1～3 件は、作品を借用してきて展示を行っている。

それは筆者の博物館に限ったことではなく、全国どこの博物館・科学館でも多かれ少なかれ学芸員が抱えている悩みである。

また、最近では、図書館等でも入口ホールに展示スペースを設けているところが多く、積極的な活用が期待されてはいるが、地元の団体等の利用だけでは展示をする回数も少ない。規模の小さな展示が使用料の心配もなく借りられるとなれば、利用者サービスとして図書館も喜ぶのである。

小規模な博物館・科学館等が抱えている悩みに対し、日本雪氷学会は会員（研究者）とその研究資料を活かした社会貢献活動もできると判断した。

そこで、博物館で勤務する筆者と同じ立場である今期の広報委員とて、往復の運搬費、設置・撤去費、運営費（独自のポスターやチラシ等を作成する経費を含む）の負担のみで、まとまった展示パネルを貸し出しできる事例を作ろうと、まずは広報委員の勤務先である佐久市子ども未来館（長野県佐久市岩村田 1931-1）で平成 22 年 1 月 16 日（土）から 3 月 7 日（日）までの期間、実施することにした。

1) 広報委員会委員長

2) 広報委員



図 2 巡回展ポスターのデザイン

3. 巡回＊雪氷写真展「ようこそ！雪と氷の世界へ」



図 3 佐久市子ども未来館

巡回＊雪氷写真展のスタート地となった佐久市子ども未来館では、以下の組合せで展示した。

(1) 雪氷研究大会 2008 東京において、「雪氷楽会 in 東京一楽しく学ぶ雪と氷のふしぎ体験一」(開催日: 2008 年 9 月 27 日 (土), 場所: 東京大学工学部 2 号館フォーラムスペース) で展示公開した A1 サイズのパネル 7 点 (内, 2 枚は「日本雪氷学会とは?」「雪の文化」の解説パネル, 残り 5 枚は「雪と氷の科学」/制作協力: 山下晃氏)。



図 4 上: 解説パネル, 下: 「雪と氷の科学」

(2) 広報委員会の保管データ 62 点から、今回展示したい写真を選んでもらったところ、会場の広さに合わせて 20 点が選ばれた。内, 2 点はパネル 1 枚にまとめたので、雪氷写真のパネル枚数は B3 サイズで合計 19 枚。中でも、雪形 3 点中 2 点には、それぞれにイラストを加えて雪形を発見しやすくした。

(3) 巡回展用に新規に加わった雪結晶 9 点 (提供: 油川英明氏) は、写真パネル 2 枚 + 雪結晶にまつわる解説パネル 1 枚に加工した。

巡回展キットは、(1) と (3) を基本パネルとし、そこに現在保管しているデータ 62 点と今後加わる写真データをあわせた中から、会場の展示スペースや希望に応じてパネル数を変えることにする。

また、展示と併せて入会案内の設置をお願いし、新規会員の獲得を期待する。



図 5 雪結晶パネルと雪形パネルのコーナー



図 6 雪氷写真展 展示風景

4. 巡回展キットの貸出予定と今後の課題

佐久市子ども未来館で展示した様子を各地の科学館等にPRすると、即座に4件の問合せがあり、他の候補作品のインデックスを提示したところ、佐久市での巡回展終了後すぐの開催（3月9日～4月4日の予定）が1件決まり、平成22年度

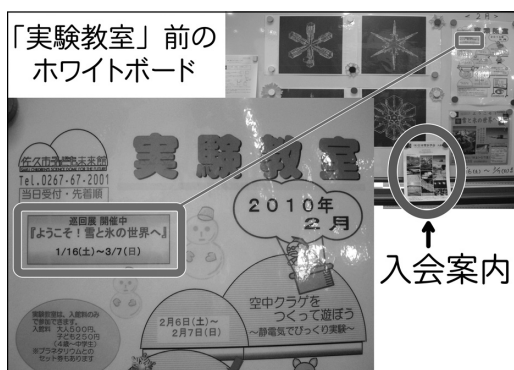


図 7 雪氷写真展を観ながら歩みを進めると、実験教室（上）の入口にたどり着く。教室前に設置されたホワイトボードには、体験プログラムと共に巡回展のPRも記されていた。入会案内は、このホワイトボードに掲載されている以外に、雪氷写真展の途中にも設置されており、自由に持ち帰ることができる。

中に残りの3件とも展示したいとの希望をいただいている。

上記の貸出先とは別に、筆者の館でも一年のうちで最も来館者の多い夏休み期間中に展示する予定であるため、平成22年度中に4件、トータルでは合計6件に貸し出すことになる。

今回、佐久市が負担した経費は、筆者の館（滋賀県）から佐久市までの往復の運搬費（梱包3箱分）で約10,000円、設置・撤去費および運営費に約3,000円を要した。

平成22年度の実施館のひとつは北海道であるため、雪氷写真のパネル数によっては運搬費がかさみ、ポスターやチラシを印刷するか否かにより運営費も変わるが、展示資料が無料で借りられることに加え、学術的な資料であるという質の高さ（安

心感)に魅力を感じていただけると推測する。

今後の課題としては、巡回展キットを最大どの程度の規模・回数にまで広げるかということと、開催希望時期が重なったときの対応をどうしていくかということがある。現に、雪や氷がテーマとなっているため、今回希望をいただいたところも2件が冬場の展示を希望している。

平成22年度に関しては、基本パネル(A1サイズ7枚+雪結晶3枚)に加えて写真パネルは30枚程度、展示期間(貸出から返却までのスケジュール)は申請順に確保していくものとし、なるべく重ならないよう調整するが、できれば同時開催も可能となるよう、2セットは確保し、できる限り希望に応えられるようにしていきたいところである。

なお、貸し出す場合の条件としては、下記の遵守事項を定めている。

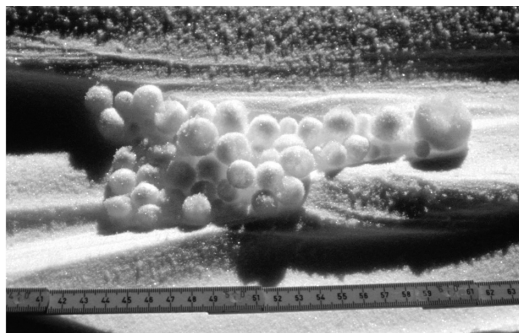
- (1) 巡回展示物を展示目的以外で使用しない。また、いかなる形でも転貸、複製等をしない。
- (2) 展示およびその告知にあたっては、社団法人日本雪氷学会の協力名称を明示すること。
- (3) 借受に係る費用(展示物の往復輸送費、設置費、運営費等)の一切は、開催機関が負担する。
- (4) 展示終了後、報告書を提出する(会場写真、入場者数、あれば新聞掲載記事等)。
- (5) 展示物を破損・紛失した場合は、申請者の責任により現状復帰し返却する(具体的には、額およびパネル原稿の拡大印刷費の負担)。

5. 雪氷写真パネルの形態

雪氷写真パネルは、図8のように写真・タイトル・簡単な解説文・著作者名(挿入されたイラストの著作者が異なる場合には、イラストの著作者も併記)の情報がセットで1枚のパネルとなっている。

通常、写真展というと、作品(写真)とそのキャプションが分離されて掲示されることが多いが、巡回展はどんな場所で開催されても、その写真の著作者が明らかとなるよう、全ての情報はパネル内に収めることにした。

また、基本的に写真はトリミングや画質の調整をしないで使用する。ただし、トリミングした方が効果的だと判断する場合や画質が暗すぎる場合な



南極ドームふじで観察された雪まりも 亀田貴雄

写真で撮影された雪結晶の形状が美しくなるように、それが雪結晶を観察することによって観察したと考へられている。雪まりもについては、以下の論文(論文)と解説(解説)を参考のこと。
[Kawada, T., H. Nakano, N. Amano and H. Matsuyama (1999) Observation of "snowflakes" on the snow surface of the inland plateau, Antarctic ice sheet. *Journal of Glaciology*, 45(150), 204-206.] 亀田貴雄(2007) 雪まりもの発見と再発見。雪氷 69(3), 423-437。①A1サイズ、1995年11月26日。

図8 パネル見本(横型)

どは、パネル制作時に提案し、著作者と協議する。

6. おわりに

巡回*雪氷写真展は、科学館・博物館あるいは図書館のような公共の施設以外の場所でも展示できるように広報活動をしていきたいと考えている。

そのためには、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層に楽しんでもらうための“心揺さぶられる資料”(美しい・面白い・不思議だ・悲しい状況だがこれが現実になっていることなんだ、等)をたくさん抱えることが必要となっている。

多くの学会員に賛同いただき、この事業への参加(資料提供)をお願い申し上げます。

また、それぞれの職場や近くの施設など、展示を希望するところがあれば、気軽にご相談ください。

筆者連絡先

角川咲江

西堀榮三郎記念探検の殿堂

www.tanken-n.com

〒527-0135 滋賀県東近江市横溝町 419

TEL : 0749-45-0011 FAX : 0749-45-3556

Mail s_sumikawa@mac.com

碓氷英之

佐久市子ども未来館

www.kodomomirai.kan.city.saku.nagano.jp

〒385-0022 長野県佐久市岩村田 1931-1

TEL : 0267-67-2001 FAX : 0267-67-2731